The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 「遠い国なら他人事？？」 ： 予防接種から見る、理想の国際支援 |
| Author(s) | 関, 淳一; 加治, 聡子; 七野, 紀之 |
| Citation | 目で見るWHO. 2016, 59, p. 4-5 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/86661 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

●第 5 回 jaih-s との共催企画フォーラム開催報告

# 「遠い国なら他人事？？」

## ～予防接種から見る、理想の国際支援～

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)とは「国際医療保健に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。全国の国際保健医療に関心を持つ様々な分野の学生に対して、幅広い情報や機会の提供を行い、将来、世界で活躍する人材を育成することで日本及び国際社会への貢献を目指す活動は、国内外の健康につながる人材の育成を事業目的の一つに掲げる公益社団法人日本 WHO 協会の考えと一致するものです。

この趣旨を踏まえて、第 5 回目となる共催企画フォーラムを 2015 年 10 月 3 日に大阪産業創造館で一般社団法人大阪薬業クラブの助成も頂き「遠い国なら他人事？？」～予防接種から見る、理想の国際支援～をテーマとして開催いたしました。

**●開会の挨拶　日本 WHO 協会理事長　関　淳一**

WHO は目下の最重要目標として、UHC（ユニバーサル　ヘルス　カバレッジ）＊[1]を挙げています。これは、WHO 憲章の精神からも、世界の加盟国が先ず取り組むべき、極めて重要かつ適切な目標であります。

現在、国際保健医療の世界では、極めて多くの分野において、様々な形での国際医療支援が進めてられております。その結果、全体としては、世界の人々の健康水準は間違いなく向上していると言えると思います。

しかし、一方で、医療支援の地域間格差、国際間格差、更には国内格差が指摘されています。そこで、私共は、少し立ち止まって、医療支援の現在の実態について改めて考えてみることは極めて意味のあることだと思います。

今回、jaih-s の人達は、この課題を考える手段として、予防接種の普及率をとり上げ、フォーラムの参加者と共に考えることを企画しました。

今回のフォーラムもこれ迄と同様に、テーマの選定、企画などは全て jaih-s の人達によって行なわれました。

私は、jaih-s の企画担当スタッフの人達の発想と思考の素晴らしさに接し、まさに今必要な企画であり、是非成功させたいと強く思いました。

今回、非常にお忙しい中、フォーラムの講師をお引き受け頂きました、蜂矢正彦先生、浦部大策先生、久木田純先生にこの場を借りまして、心から厚く御礼を申し上げます。

このフォーラムが、予防接種の普及という現実の課題を直視することを通じて、真の国際支援について参加者の方々が改めて考えられる機会となりますことを期待致しております。

＊[1] Universal Health Coverage：全ての人が、必要な時に負担可能な費用で基礎的な医療サービスを受けることができる状態

●開会の挨拶

jaih-s 第 10 期代表

加治聡子

私たち jaih-s は「国際保健医療に関わる人材育成」を目標に 2005 年に設立された学生団体です。jaih-s では「ネットワーキング」、「大学では得られない学習環境の提供」、「多分野からの活動参加」を大きな 3 つの柱として、全国の学生に平等に国際保健医療の学習環境を提供すべく全国各地での勉強会や合宿などを開催しています。第 10 期のスローガンは、『見直す・魅せる・学生として学ぶ』とし、より充実した企画を参加者の皆様にお届けできますよう運営委員自身の活動や学習機会から見直しを行っております。更に、jaih-s が国際保健に関心を持つ学生にとってより近い存在となれるよう、各企画や運営委員としての活動の魅力を発信しております。

本日は、「予防接種から見る、理想の国際支援」をテーマに、疾病予防対策としての予防接種とその普及について学習してまいります。

講師の先生方はお三方とも、それぞれの場所で予防接種の普及に向けてご活躍してこられた方々であり、各立場からのお話や現場のお話を基本からお話しいただけることと存じます。インプットすることに留まらず、先生方のお話を受けてご自分の中で「理想の支援」について考えをめぐらせ、ワークショップでの意見交換に繋げていただけますと幸いです。

また、ワールドカフェでは先生方と直接お話しできる絶好の機会となっておりますので、皆さま是非とも、肩の力を抜いて国際保健へのかかわり方などご質問くださいませ。

●本企画の立案にあたり

jaih-s 第 10 期後半

勉強会班班長　七野紀之

本企画の立案にあたり、私たちは三つのエッセンスを立案基盤として設定しました。それらは、「主体的思考の実践」「リアリティの体感」「行動の契機」から構成されております。

本勉強会のテーマは「予防接種」「理想の国際支援」という、国際保健医療の代表的なトピックとなっておりますゆえ、既存の考え方に囚われがちになることも多いかもしれません。このようなトピックにおいて重要となるのは、「主体的思考」であり、その本質は、イノベーションにあると考えます。すなわち、講師の先生方のお話をただ受け入れて終わるのではなく、聞き、考え、選び、そして自らを innovate（自分自身を刷新する）するということです。その先にこそ、新たなアイデアがデザインされる可能性が存在するはずです。皆様に「主体的思考」の下、「理想の国際支援」の新しい形を探っていただくべく、様々な工夫を凝らしました。

また、Global Health に従事しておられない方にとって、Global Health の舞台という非日常を身近に感じることは容易なことではないでしょう。そして、いかに身近に感じることができるか、それは Global Health という分野に進むうえで非常に重要なパラメーターではないかと考えています。なぜならば、身近に感じることが日頃の行動を促し、日頃の行動の積み重ねが将来への足掛かりになると考えるからです。ゆえに、皆様が本勉強会を経て、ただ学ぶだけで終わるのではなく、「Global Citizen」の一員として Global Health に当事者意識を抱き、国際協力の「リアリティを体感」し、それに伴い本勉強会が「行動の契機」となるよう、本企画を練り上げました。

主体的思考を実践していただくことで、国際支援の新たな理想像を考えていただきます。リアリティを体感することで、Global Health を身近に感じていただきます。可能性を考え、身近に感じることができたならば、あとは行動に移していただくだけです。